

JCMA 報告

基礎工事に用機械製造工場見学会

網代 秀一
村手 徳夫

1. はじめに

基礎工事に用技術委員会では、平成19年11月15日(木)と16日(金)の両日に日立住友重機械建機クレーン(株)名古屋工場(愛知県大府市)と日本車輛製造(株)鳴海製作所(名古屋市緑区)の2工場の見学会を開催した。参加者は青柳委員長他14名の委員であった。当日は天候にも恵まれ、工場見学会を実施できた。

2. 日立住友重機械建機クレーン(株)名古屋工場見学

全員14時に第一会議室に集合した。齊藤生産本部長の挨拶の後、青柳委員長からお礼の言葉があり、引き続き網谷生産管理部長から工場の概要と生産の状況について説明があった。玄関前で集合写真を撮り、



写真一 工場見学会記念写真

工場内に移動した。

(1) 工場概要

2002年10月に日立建機(株)のクレーン部門と住友重機械建機クレーン(株)が手を結んで生まれた日立住友重機械建機クレーン(株)(HSC)の工場で製造本部名古屋工場として2004年に新設された。愛知県大府市に敷地面積約10万平米、建屋面積約4.1万平米有するマザー工場である。ここでクローラクレーン、基礎機械、トラッククレーンを生産、世界各地で販売している。ここで働く人は約450名、月の生産量は約45台である。



写真二 工場全景

見学は、ラチスブームの溶接ラインを経て、サブ組および組立ラインを見たが、吊り能力55tから275tまでの本体がライン上で組み立てられていた。

北米でのパートナーであるLink-Belt社へ供給するものも数台あり、これは塗装色に特長があった。アースドリルは本体とフロントについてはテレスコプーム、ケリーバがラインそばにおいて興味深く見ていた。



写真三 組立ライン



写真—4 部品センタ

次に、部品センタに移動した。ここは日本全国および海外各地への部品の供給を行うところであるが、ここでの見学では、棚に置かれた多数の在庫部品に宝の山だとの発言もあった。

(2) 質疑応答

見学後の質疑応答は活発な質問が寄せられた。

主なものは、生産台数、排ガス3次規制への取り組み、基礎製品の製作について、外注内作の内容、旋回輪・油圧機器の納期、ロボット化技術の取り組みなどであった。また、現在問題になっている建築基準法改正による認可の遅れに対する報告もあり、有意義な時間であった。

3. 日本車輛製造(株)鳴海製作所見学

前日の日立住友重機械建機クレーン(株)名古屋工場の見学に引き続いて翌日は、日本車輛製造(株)鳴海製作所の見学を行った。両社は直線距離で7.5 km程の近距離にあり、同業社を一度に見学できるメリットがあった。大府に宿泊後、翌日の9時に機電会館・CSホールに集合した。

執行役員宮川本部長の挨拶後、村手委員から工場の概要と生産の状況について説明があり、その後、工場内に移動した。

鳴海製作所は建設機械の生産を1959年から開始し、本年で48年目となる工場であり、基礎工事事用機械の生産としては長い歴史がある。名古屋市緑区鳴海町に敷地面積6.3万平米、建屋面積3.3万平米を有している。ここで、大型～小型の杭打機、クローラクレーン、アースドリル、全回転チュービング装置等の基礎工事事用機械や可搬式発電機、非常用発電装置などを生産し、



写真—5 工場見学記念写真

国内外に販売している。ここで働く人は約230名、基礎工事事用機械の月産量は約15台である。

見学は組立最終工程から戻っていく順路で進み、本体組立ライン→上部旋回フレームを加工する大型マシニングセンター→上部旋回フレームの溶接ロボットを経て、材料の熱処理炉の見学までを最初に行った。組立ライン上には大型杭打機のDH658が組立てられていた。その後、製缶工場、機械工場を経て全回転チュービング機械の組立、小型の杭打機の組立を見学した。この工場を出たところで集合写真を撮った。

その後、基礎工事事用機械の特長であるユーザ向け特殊改造組立ラインに移動し、多機種にわたる基礎工事事用機械を十分に見学することができた。

見学後は機電会館・CSホールに戻り、質疑応答が行われ、前日の日立住友重機械建機クレーン(株)名古屋



写真—6 大型杭打機 (DH658)



写真一七 小型杭打機



写真一八 特殊改造組立中の杭打機

工場と同様に活発な質問が多く出て、有意義な会合となった。最後に青柳委員長の挨拶で今回の見学会が終了した。

4. 見学を終えて

2日間にわたり生産工場を2つ効率よく見学できました。最近の建設機械の販売が活況を呈していることもあり、両工場とも繁忙をきわめていました。繁忙のなかにも安全通路の確保や整理整頓が行き届いていて、また納期のかかる部品も積み重ねてあり、さすがという感じをうけました。新機種の組み立てラインでは新構造の部位もあり、技術の進歩を感じる事ができました。

最後に大変お忙しい中、懇切丁寧な説明と案内をして下さいました HSC の齊藤様と日本車輛の宮川様並びに見学会にご協力くださいました関係各位に深く感謝するとともに両社の今後の発展をお祈り申し上げます。

JICMA

【筆者紹介】

網代 秀一（あじろ しゅういち）
日立住友重機械建機クレーン㈱
開発本部 技術部



村手 徳夫（むらて とくお）
日本車輛製造㈱
機電本部 開発技術部

